

岷江活動記録（日本出発より事故前日まで）

6月11日

- 9:40 大阪空港発
- 10:45 成田空港着
- 17:10 成田空港発
- 20:05 上海空港着 中国国際体育旅游公司の通訳王盾氏と上海の旅行社の人達に迎えられる。
- 21:00 ホテル「運動員の家」に到着

6月12日

- 成都へ飛ぶ飛行機は22時発なので、上海を案内してもらう。
- 22:00 上海空港発 通訳の王盾氏同行。

6月13日

- 00:10 成都空港着 中国国際体育旅游公司の連絡官罗思祥氏と成都旅游公司の人達と合流。
- 1:30 ホテル着
- 9:00 罗思祥氏・王盾氏等と打合わせ。中国国際体育旅游公司からの2人、成都旅游公司からの4人、計6人の協力員と顔合わせ。
- 18:00 中国側の協力隊員全員と交歓会。

6月14日

- 6:25 出発 車2台で出発
- 7:30 灌县着
- 8:10 都江堰より初めて岷江を見る。
- 10:55 汶川通過 岷江沿いの道路より離れる。
- 12:45 理县着
- 20:20 紅原着 政府招待所に宿泊

6月15日

- 9:30 出発
- 14:00 チベット人の道路修理隊の詰め所にて昼食をとる。
- 17:20 黄胜关着 ここにきて初めて、黄胜关側の川は岷江の支流であると聞く。一旦本流との合流地点までむかう。
- 18:00 合流地点漳腊着 橋の上より川の様子を見る。この橋より航行開始と決定する。
- 18:35 漳腊上流10kmの地点にてC.1 設営
- 22:00 協力隊員と翌日の打合わせ。

6月16日

- 8:30 源流へむけて出発。4輪駆動車1台で行く。
- 9:45 道路が岷江と離れる地点に到着。ここより徒歩にて藪を進



源流部

む。隊員5人による。かなり奥まで現地の人がはいっている形跡がある獣道をたどってゆく。

12:25 源流に到着 幾つにも細流にわかれていて、これが本当の源かどうかは分からない。しかし、ここが源の一つであることは確かである。

14:10 漳腊にもどって昼食

15:30 翌日の航行のために偵察に向かう。

16:10 松潘の下流5km程まで偵察してもどる。

18:30 松潘着 政府招待所にて宿泊

21:00 郵便局より日本連絡本部へ国際電話をいれる。

6月17日

8:00 出発

8:30 漳腊着 ボートの準備開始。

9:25 航行開始 多くの現地の人々に見送られる。(岩根、山下、大西、村上 乗船)

10:00 河岸の加藤と交信。加藤の声は聞こえるが、ボートからは届いていない様子。

途中、発電所が岸より放水しているため、航行不能。ボートを陸揚げして迂回する。橋を渡って対岸より下ろす。

11:00 交信を試みるが通話出来ない。加藤の声も聞こえない。トランシーバの不調ではなく、地形的な原因と考える。

12:55 予定地点到着 ボート陸揚げ 昼食 C.2設営

14:40 偵察に出発 鎮江まで偵察し戻る。

17:15 C.2着

6月18日

8:00 航行準備開始

8:50 航行開始(協力隊員の希望で一人同乗する。岩根、山下、大西、加藤 乗船)

9:30 協力隊員は下船。堰堤があるため、ボートだけをザイルで流して迂回する。

10:30 交信を予定していたが、河が瀬になっており交信の余裕なく見送る。

11:50 昼食 サポートの加藤と合流し、状況を知らせる。

13:15 鎮江着 ボート陸揚げ

15:10 偵察に向かう

17:05 较場過ぎの道路崩れ地域に着く。

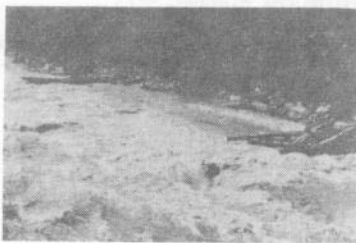
18:30 太平着 C.3設営 ジープは故障の修理のため隊を離れて先に両河口にて待機となる。

6月19日

8:45 鎮江へ出発



鎮江付近を航行中のボート



瀬に突入するボート

10:00 航行開始(岩根、山下、加藤、村上 乗船)

10:40 鎮江より約12kmの地点で転覆。

山下、加藤、村上はすぐに岸に上陸。岩根は約8分1.5km程流されて岸に上陸。協力隊員の助けて道路まで上がり、マイクロバスに乗る。

11:50 1km程下流でボートを発見、回収する。

12:30 昼食 航行を中止してC.3に戻る。

20:00 太平の村の人達に招かれ、村へ交流に行く。

6月20日

9:20 出発 もう一度偵察をしながら、前日転覆した瀬の下流まで行く。危険と判断する瀬の手前でサポートする者に赤い服等をふらせて、目印とする。(トランシーバは前日の転覆の時に紛失する。)

10:30 開始地点到着 ボート準備

11:00 航行開始(岩根、山下、大西、村上 乗船)

途中、サポートが約束の赤服を振るのを確認。その手前で着岸。瀬の部分の岸が崖のため、ザイルでボートだけを流せないの、迂回するためボートを道の上まで引き上げることにする。150m程道を運び、瀬の下流で下ろす。

11:54 開始地点より約10kmの地点で転覆

裏返ったボートに全員つかまり足を打たない様に上げている姿勢でしばらく流される。再び激しい瀬で表返される。大西が飛ばされて離れて流される。岩根、山下、村上はボートに再度乗り込み予備オールを使って、大西を追う。大西は約4分800m程下で岸にたどりつく。ボートもほぼ同位置につけられる。

12:20 ボートを回収してC.3へ戻る。

13:30 C.3着 昼食 隊の士気が落ちている。この区間はパスして翌日は道路崩れ地区を進むことにする。

20:00 翌日雇う歩荷人夫について罗思祥氏と打ち合わせ。

6月21日

7:50 出発

8:30 道路崩れ地区に到着 マイクロバスは迂回して両河口にて待機する。

協力員が歩荷人夫を集めてくる。

10:30 出発 道路は完全に崩れている。崖縁のかなり細い道を行く。

20:00 両河口までは行き着けないので、セキカンにて宿泊。

崖縁の道を進む



6月22日

- 9:50 出発
13:05 両河口着 先行迂回していたジープが待っている。マイクロバスはまだ到着していない。
13:30 歩荷人夫を解雇。
14:00 自動車でピストンして茂汶へ向かう。翌日の航行は両河口から茂汶として、偵察をしながら行く。
16:30 茂汶着 賓館に宿泊。
21:00 日本連絡本部へ国際電話を入れる。川の状態を説明し、おおむね順調と報告する。

6月23日

- 9:30 偵察をしつつ両河口へ向かう。
9:55 両河口着 ボート準備
10:25 航行開始(岩根、山下、大西、加藤 乗船)
途中、2カ所、激しい瀬があったが、岸を歩けるのでザイルでボートだけを流して迂回する。
13:35 茂汶着 橋の上にはものすごい人だかり。子供達がボートを賓館まで運んでくれる。
15:40 翌日の偵察に行く。

6月24日

- 9:30 航行開始 前日同様、黒山の人だかり。(岩根、山下、大西、加藤 乗船)
10:45 茂汶より約15kmの地点で転覆。岩根、山下、大西は裏向きのボートにつかまるが加藤が流される。約300mで加藤は岸につく。ボートは600m程で岸に着く。山下、大西にボートを回収できる場所をさがさせる。岩根は引き返して加藤を探しに行く。協力員が加藤を発見。彼らの勧めで加藤は病院へ行く。岩根は対岸より見届けて、ボートにもどり、山下、大西とボートを撤収する。
12:30 汶川の病院まで加藤の様子を見にいく。
14:30 病院着 加藤は元気な様子だが、医者の指示で入院となる。通訳の王氏が付き添ってくれる。
16:30 汶川招待所に到着

6月25日

- 8:20 出発
8:47 前日転覆地点の下流まで、偵察しながら行く。
9:35 開始地点着 ボート準備
10:15 航行開始(岩根、山下、大西、村上 乗船)
途中、偵察段階で発見していた瀬に到着。偵察時より激しく感じられ、瀬をさけるためボートをザイルで流す。



茂汶の町にて



茂汶の下流にて

11:55 汶川着
 12:25 病院まで加藤の様子を見に行く。心配はない様子。
 12:55 昼食
 14:00 翌日の偵察に行く。
 15:30 汶川と灌県の間地点まで偵察、翌日はここまでの航行とする。
 16:45 招待所へもどる。加藤も退院してきている。

● 6月25日までの航行距離と航行時間

6月17日	25km	3.5時間	
18日	38km	4.4時間	
19日	12km	0.7時間	1回目転覆
20日	15km	1時間	2回目転覆
21日	河岸道路不通部分の		
22日	28kmを徒歩で移動		
23日	29km	3時間	
24日	15km	1.2時間	3回目転覆
25日	20km	1.7時間	
総距離	182km	総15.5時間	

25日までの活動総括

ここまで我々は、転覆3回を含むものの1日平均26kmを航行している。河の様子は、常に泥色であり激しい流れを見せている。我々は前日及びその日の偵察に従って、瀬を回避しつつ航行を続けた。

過去3回の転覆は、崖の影になっていたりして、近距離から偵察しきれていない瀬で起きた訳である。

この際は我々はトランシーバーや航行時に装備する医療セット・ポンプを流失している。医療セットやポンプに関しては予備があり支障はなかった。トランシーバーについても、この地形的状況では交信がままならず、大きな支障ではない。

また、日本より用意したオール9本のうち7本を流失してしまい、急遽現地の木工職人に我々のオールを見本に作製を依頼した。

出来たオールは少々重いという点を除けば全く問題はなかった。

尚、3回目の転覆の時に、入院した加藤だが、やはり少し疲れは見えるものの元気をとりもどしていた。だがボートに乗せるのはもう少し早いと判断、翌26日はサポートしてもらうことと決定した。

以上が25日事故前日までの概要である

(隊長記)

